

326

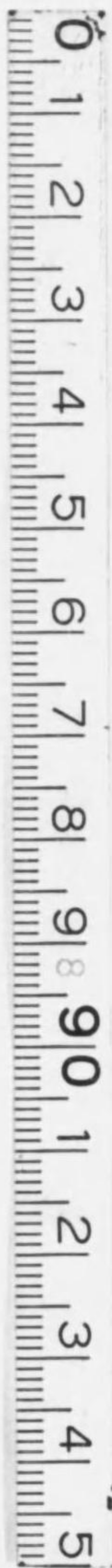
特248

885

昭和十二年八月

中華民國要人錄

帝國在鄉軍人會本部



始



特248  
885

本冊子は現在中華民國に於て活躍しある同國要人中  
一部の氏名及略歴を摘録したものである。  
而して記載の順序は軍部關係者與其他とに區分し「ア  
イウエオ」字音の順に列記する。

### 軍部關係者

**于學忠**(字は孝侯) 山東省蓬萊縣人、一八八九年生。北洋武備學堂出身、吳佩孚の舊部下。後奉天軍に屬したが一九三二年張學良失脚後、國民政府軍事委員會北平分會委員、河北省政府主席等に就任、一九三五年五月の北支事件の結果陝西省綏靖主任に轉じ、後甘肅省政府主席となり、學良と共に西安事變を起したが許されて留任す。

**衛立煌**(字は耀珊) 陸軍第十四軍長、安徽省合肥人、一八七六年生。保定軍官學校卒業、皖北警備第三旅隊司令、第四十五師長(後第十師と改稱)兼皖北剿匪指揮を経て皖北警備司令兼安徽省政府委員となつたが、一九三一年共產黨討伐の爲め江西省に出動し第十四軍長になり更に共匪を追つて西北方面にも出動してゐた。蔣介石直系で宋子文とも密接な關係を有する。

**閻錫山**(字は百川) 山西省五臺縣人、一八八三年生。日本陸軍士官學校卒業。日本留學中に支那革命の母胎たる中國同盟會に加入。第一革命に際し太原に兵を擧げてより終始山西省を本據として活動、一九三六年三月共產軍討伐を名と

して中央勢力山西に侵入するや多年の地盤一朝にして潰滅し、今や蔣介石の完全な支配下にある。

**王均**(字は治平) 第三軍長、雲南講武學堂卒業、早くより朱培德に従ひ一九二七年第三軍長となり北伐以來蔣介石軍の主力となつて活躍し、一九三二年以來江蘇、安徽、陝西方面で共產軍討伐に従事してゐる。

**王金鈺**(字は湘汀) 第五路軍總指揮、山東省武城縣人、一八八四年生。日本陸士騎兵科卒業、初め孫傳芳軍に従つたが後蔣介石に接近しその傍系軍として對傳、閻戰爭に参加す。其後共產軍討伐に従事したが麾下部隊の慘敗の責を負ふて下野、暫くして江西に歸り再び共匪討伐に従つた。

**王樹常**(字は庭五) 軍事參議院副院長兼甘肅綏靖主任。奉天省遼中縣人、一八八五年生。日本陸士及陸大卒業、奉天軍各軍職に在つた、後顧維鈞内閣の陸軍次長となつたが辭して奉天軍第十軍長として國民革命軍と戦ひ奉天に歸つたが一九三〇年奉天軍京津進出と共に第二軍長として天津に入り翌年河北省主席となり、平津衛戍司令を経て參議院に入つた、張學良系要人で、西安事變善後措置の爲め一九三七年一月干學忠軍目付役として甘肅入りを命ぜられた。

**王靖國**(字は治安) 第七十師長、山西省五臺縣人、一八九二年生。保定軍官學校卒業。閻錫山の山西軍に投じ國民革命

軍第三集團師長、中央軍第三十七師長となつたが、閩の反蔣軍の山西第三軍長として参加し閩の失脚後山西に退き次いで中央軍第七十師長に任ぜられ日下緩遠に在る。

**王柏齡**(字は茂如) 國民黨中央執行委員、江蘇省揚州人、一八八九年生。北洋軍官學校及日本陸士卒業。日本留學中より孫文の革命運動に投じ一九二三年孫文の廣東大元帥府高級參謀となり、續いて蔣介石の下に在つて黃埔軍官學校訓育部長、北伐軍第一軍副軍長等となり、次いで長江要塞司令、中央軍官學校訓育部長、江蘇省政府委員に歴任した。

**翁照垣** 廣西軍師長、廣東省人、一八九三年生。廣東士官學校、日本陸士を出て佛國で航空術を學んだ、蔡廷楷の第九路軍に入り上海事變に旅長として閩北及吳淞にて日本軍に抵抗した、又一九三三年張學良の下に河北省灤河地方の對日防禦戦にも参加した。一九三四年福建獨立運動に加つて失敗後は廣西に移り同軍獨立第一師長となり一九三六年北海事變を起した排日元兇である。

**溫應星**(字は鶴孫) 財政部稅務團長、廣東省臺山縣人、一八八七年生。南洋大學卒業後、米國バージニア陸軍學校米國ウエスト・ポイント陸軍士官學校に學ぶ。上海軍政府參謀長孫文秘書、廣東軍政府參謀次長を経てのち各地の警察、憲兵事務に従ひ又北平清華大學校長たりし事もある。次いで財政部鹽務署輯私隊長となり、一九三二年上海市公安局

長、一九三三年現職に轉じた、宋子文の親戚である。

**何應欽**(字は敬之) 貴州省興義縣人、一八八九年生。日本陸軍士官學校、陸軍大學出身。第一、第二革命に参加。蔣介石直系の軍人らしき軍人として信望厚く、一九三〇年國民政府軍政部長に就任以來今日まで支那陸軍の改革擴充に努力し、その間西北及び中部支那の共產軍討伐軍總司令、軍事委員會北平分會長等を兼任したこともある。

**何鍵**(字は芸樵) 湖南省醴陵縣人、一八八七年生。保定軍官學校卒業。夙に唐生智の麾下に參じ始終蔣介石政權に對抗し來れるも一九二九年蔣と妥協し湖南省政府主席、第四路軍總指揮として長沙を中心に地盤を固めをるも、動もすれば廣西派と通ずる恐れありとして常に蔣の嚴重な監視と干渉を受けてゐる。

**何成濬**(字は雪竹) 湖北省隨縣人、一八八一年生。日本陸軍士官學校卒業。歸國後革命に盡力し一九三〇年以來武漢行營主任、湖北省政府主席、武漢綏靖公署主任等に歴任し、蔣介石直系として南京政權の強化に努力してゐる。

**夏威** 廣西軍々長、廣西省人、一八八七年生。廣西講武學堂卒業、李宗仁の下に旅長より第七軍長に進み北伐戦には白崇禧に従つて参加、一九三六年の廣西の反蔣抗日軍事には前敵總指揮となつた。

**夏斗寅**(字は靈炳) 武昌行營高級參謀、湖北省黃岡縣人、一八八五年生。辛伍出身一九二六年より蔣介石に従ひ北伐に参加し國民革命軍第二十七軍長、第十三軍長、湖北警備司令に昇進、一九三二年湖北省政府主席兼第二十一路軍總指揮に任ぜられたのち武昌行營に入る。

**賈德璋**(字は焜庭) 冀察政務委員會常務委員、安徽省合肥縣人、一八八〇年生。日本陸士卒業、段祺瑞の親戚にして馮國祥の北京クーデターの際には馮の參謀たり、許世英内閣の陸軍總長、一九二六年國務總理となつた。奉直聯合軍が國民軍に敗れるや亡命したが最近の冀察政府委員會の成立により再び北支に返り咲いた。一九三七年一月陳中孚の後をうけ冀察外交委員會主席を兼ね。

**賀國光**(字は元靖) 湖北省蒲圻縣人、一八八五年生。北京陸軍大學卒業。唐生智麾下に入りしも唐沒落後南京政府軍事委員會主席參事、國民政府訓練總監部步兵監、贛粵閩邊區剿匪總司令部參謀長等を経て一九三五年蔣介石の四川省中央化に際しては參謀團主任として重慶に起き次いで四川省行營主任に任ぜられた。

**賀衷寒**(字は君山) 湖南省岳陽縣人、黃埔軍官學校卒業、蔣介石の信任特に厚く、現在藍衣社の首領。國民政府軍人組織科長を兼任してゐる。元共產黨員。

**賀耀組**(字は貴嚴) 湖南省寧鄉縣人、一八八九年生。日本陸

軍士官學校卒業。趙恒惕麾下に湖南軍第一師長として唐生智軍と戦ひ、蔣介石の北伐に際し國民革命軍に加はり、其後國民政府參謀長を経て一九三二年蔣介石參謀長の下に次長に選ばれ一九三四年駐土公使に任ぜられた。

**萬敬恩**(字は淇侯) 軍政部航空署長、浙江省嘉興縣人、一八八九年生。日本陸大卒業。始め孫傳芳に従ひ後蔣介石麾下に入り國民革命軍總司令部參謀處長たり。一九三〇年青島市長、次いで參謀次長、軍事委員會第一廳副主任を経て現職に就く。

**萬光庭**(字は觀辰) 膠濟鐵路管理委員會委員長、安徽省蒙城縣人、一八八二年生。日本陸士卒業。陳炯明の下に廣東軍政府參謀部參事たりしが、後奉天派に投じ北平駐在張學良代表たり。其後隴海鐵路管理局長、平漢鐵路管理局長を歴任した。

**韓復榘**(字は向方) 河北省霸縣人、一八九〇年生。若年にして馮玉祥軍に入り一兵卒より身を起し一九二九年馮と袂を別ち蔣介石に加擔して一九三〇年山東省政府主席、魯豫清鄉督辦を兼任。爾來山東を地盤として日本と親交を結び半獨立的立場を繼續しつゝあるも現在は中央、冀察兩勢力の中間に介在しその動向頗る注視されてゐる。

**許崇智**(字は公武) 考試院秘書長、廣東市人、一八八五年生。

許崇智の従弟で南京陸師學堂、日本陸軍歩兵學校卒業、前清時代より軍務に服してゐたが後廣東に走り孫文の大元帥司令部財政廳長より中央黨部財政委員を歴任した。

許崇智(字は汝爲) 廣東省番禺縣人、一八八三年生。日本陸軍士官學校卒業。歸國後福建軍に入り第一革命に際しては閩軍北伐支隊司令として南京攻圍軍に参加、後西山派に加はり反蔣運動を繼續せしが一九三一年廣東國民政府成立するや政府常務委員、國民黨中央候補監査委員等に選ばれ、現在監察院副院長。

區壽年 廣西軍師長、廣東省羅定縣人、陳銘樞の幕下に在り第十九路軍第六十師旅長となり次いで第七十八師長となつたが蔡廷楷の下に上海事變に日本軍と戦つた。其後福建事變に敗れて廣西に走つた。

顧祝同(字は墨三) 西安行營主任、江蘇省漣水縣人、一八九三年生。保定軍官學校卒業。蔣介石に迎へられて黃埔軍官學校戰術教官となり、爾來蔣介石に隨つて中央軍の中堅として常に戰場に軍を指揮し北伐開始以來終始論らぬ蔣の股肱である。一九三一年江蘇省政府主席、一九三四年軍政部政務次長となつたが、次いで江西綏靖主任、四川綏靖主任、貴州省政府主席となり、一九三六年十二月の西安事變の善

後處理の爲め西北探題として西安に赴いた。第二級上將である。

胡宗南(字は壽山) 浙江省人、一八九五年生。黃埔軍官學校卒業。夙に劉峙に従ひ一九三〇年の馮、閻反蔣軍との戰爭を始め各地に轉戦、現に蔣介石直系第一師長として活躍中である。

吳思謙(字は立凡) 軍事委員會辦公廳副主任、浙江省嘉興人、日本陸士卒業、黃埔軍官學校政治部主任、虎門要塞司令、國民革命軍總司令部辦公廳主任等に歴任、一九二九年國民政府憲兵司令となつて新に憲兵團を編成し、後首都警察廳長、次いで朱培德の下に軍事委員會辦公廳副主任に就任した。

黃強 舊十九路軍參謀長、廣東省海南島人、一八八七年生。初め陳炯明、次いで陳銘樞に従ひ、一九三一年廣東國民政府軍委員會委員となつたのち第十九路軍參謀長となり上海事變に活躍し停戰會議にも出席した。次いで十九路軍と共に福建より廣西に入つた。

黃旭初 廣西省政府主席、廣西省人、一八九三年生。保定軍官學校卒業後日本に留學。黃紹雄の下に軍職に在つて累進し第十五軍長となつたが、一九三一年廣西省主席を命ぜられ、以來軍職を離れて専ら廣西の建設行政に力を注いでゐる廣西派の有力者である。

黃紹竑(字は季宣(舊名黃紹雄)) 湖北省政府主席、廣西省容

縣人、一八八二年生。保定軍官學校卒業後廣西にあつて李濟軍に入り第七軍長より廣西省政府主席等に就いた、一九二九年李濟監禁事件以來反蔣運動を續けたが一九三〇年蔣介石と妥協し其後内政部長、浙江省政府主席に任じ一九三六年西南反蔣軍事解決後一時廣西綏靖主任を兼ねたが同年十二月揚永泰暗殺の後へ湖北主席となる。

香翰屏(字は墨林) 第四路軍(廣東軍)副總司令、廣東省合浦縣人、一八八八年生。陳濟棠麾下に投じて累進し一九三一年第一集團軍第二軍長に任ぜられたが一九三六年陳の没落後余漢謀と共に中央に服従し余の下に副總司令に就いた。陳銘樞と姻戚關係にある。

康澤 四川省人、三十三歳位。廣東黃埔軍官學校第四期卒業生。共產黨員として革命青年軍人同志會に加入。其後モスクワ中山大学に入りしも一九二七年共產黨を脱退して歸國現在表面的には四川行營政治訓練廳長、禁烟監事その他の要職に在り、裏面に於ては藍衣社別働隊三萬餘の總隊長として活躍してゐる。

谷正倫(字は紀常) 貴州省安順縣人、一八九一年生。日本陸軍士官學校卒業、第一革命に際し黃興の部下として活動、一九二八年南京衛戍司令、一九三一年中央憲兵司令に任ぜられ、何應欽系の實直なる軍人として蔣介石の信任が厚い。

さ

蔡勁軍 上海公安局長、廣東人、一八九二年生。黃埔軍官學校卒業。軍事委員長南昌行營總務廳長の職に在つたが、一九三五年吳鐵城市長の下に上海の警察を擔當す。蔣介石直系の人物である。

蔡廷楷(字は賢書) 廣東省羅定縣人、一八八六年生。保定軍官學校卒業。一九三一年南京方面に移駐を命ぜられ第十九路軍總指揮となり上海事變に大敗するや駐閩綏靖主任代理に任命さる。その後陳銘樞一派とともに福建獨立事變に失敗、下野外遊して一九三五年歸國。西南事變を契機として廣西に入り李宗仁、白崇禧等とともに抗日倒蔣策動に狂奔す。

薩鎮冰(字は鼎銘) 元海軍總司令、福建省廈門人、一八五八年生。英國グリーンウイツ海軍大學卒業。日清戰爭にも参加し海軍總司令、海軍總長等に歴任した支那海軍大元老、人格者を以て聞え一九二七年引退後福建で社會事業に當つてゐる。

謝剛哲(字は稚洲) 第三艦隊司令、四川省華陽縣人、一八八四年生。日本海軍兵學校卒業。前清末以來南方海軍に在つたが、後北京政府に入り更に滿洲に轉じ東北江防艦隊長となり次いで東北海防艦隊參謀長より第三艦隊(舊東北海軍)

司令となる。

周亞衡(字は普文) 訓練總監部副監、浙江省人、一八八八年生。佛國巴里陸軍大學卒業。東北に在つたが一九二八年南京奉天合作後南下して訓練總監部に入り今では蒋介石系と見做されてゐる。又軍事委員會第一廳副主任を兼ね。

朱慶淵(字は子橋) 行政院賑務委員會委員長、浙江省紹興縣人、一八七四年生。張作霖の下に東省鐵路護路軍司令兼東省特別區行政長官となつたのを最後に政界を退き賑務委員會に入り社會事業に従つた。滿洲事變以來上海等で滿洲抗日義勇軍の募兵、義捐金募集に活躍した。

朱綬光(字は蘭蓀) 太原綏靖公署參謀長、湖北省襄陽縣人、一八八六年生。日本陸士卒業。一九二五年以來閩錫山麾下に入り一九二九年には國民政府軍政部政務次長及同部長代理になつたが翌年閩が反蔣軍を起すや辭して爾來閩の許にあり閩が太原綏靖公署主任となるやその參謀長に就く。

朱紹良(字は一民) 駐甘綏靖主任、福建省廈門人、一八九〇年生。日本陸士卒業。貴州軍より蒋介石の許に入り國民革命軍總司令部參謀長として北伐に従つた蒋介石系將領で第八師長、第六路軍總指揮、南昌綏靖公署主任等を経て甘肅方面の綏靖主任となりこの間屢々共匪討伐に當つた。

朱德(字は玉階) 雲南省人、一八八四年生。雲南講武學堂卒業。後軍事學研究のため獨逸に留學歸國後直ちに共產黨に

共産軍討伐に従ひ江西剿赤總司令部剿匪宣傳隊長たり。後杭州の航空學校に入つた蒋介石系。著書に「日本帝國主義侵略中國史」がある。

蔣作賓(字は雨岩) 湖北省應城縣人、一八八二年生。日本陸軍士官學校卒業。第一革命以來革命軍に投じ段祺瑞麾下たりしが、後國民革命軍總司令部總參議以下諸要職を経て駐獨兼駐澳公使、一九三一年駐日公使に、一九三五年末國民政府内政部長に轉補された。

蔣鼎文(字は銘山) 駐閩綏靖主任、浙江省人、一八九四年生。浙江講武學堂卒業、黃埔軍官學校教官、國民革命軍第一師長等を歴任した。蒋介石直系の中央將領で蔣の命をうけて北伐、馮、閻反蔣軍討伐、共産軍討伐、福建事變討伐等に出席し非常な功績を樹て、上海事變にも長江流域警備司令を命ぜられて浙江に兵を進めた。福建事變平定後福建綏靖の任に就く。西安事變で學良軍に監禁された一人である。

上官雲相 第十三路軍總指揮、王金鈺軍にあつて旅長より第九軍長兼第四十七師長となり次いで江西の共産軍討伐に従事した。現在は蒋介石系である。

商震(字は啓宇) 河北省保定縣人、一八八五年生。保定陸軍速成學堂、北京陸軍大學卒業。前清時代より北支を舞臺として活躍、一九三二年河北第三十二軍長として石家莊一帯を地盤とし一九三五年夏北支事件に際し配下部隊を率ひ河

加入。一九三四年秋毛澤東とも江西省の中國中央ソヴェト區を棄て大軍を率ひて四川に向ひ、一九三五年秋徐向前部隊と合して以來四川省西部に在り。中國共產黨及び共産軍頭の一人として重要視されてゐる。

蒋介石(名は中正) 浙江省奉化縣人、一八八八年生、保定軍官學校に學び、一九〇七年渡日、高田騎兵聯隊附として勤務中、第一革命の勃發を聞き急遽歸國。孫文廣東に軍政府を組織するや許崇智の下に參謀長たりしが許と意見合はず再び上海に來り株式取引所仲買人として巨利を占む。一九二三年廣東に歸り大本營參謀長に拔擢せられ、更に入露して赤衛軍及び士官學校の組織、訓練法を研究一九二四年歸國後黃埔軍官學校を設立、自ら校長となつて革命軍人の養成に盡力。孫文没後クーデターを斷行して左傾分子を一掃一九二七年上海、南京を占領して南京に國民政府及び中央黨部を置き、上海を中心とする浙江財閥と結び、爾來十年間あらゆる反對勢力を壓伏驅逐し、軍事委員長、行政院長始め二十數個の要職を兼任す。西安事變に張學良に監禁され、失脚を危ぶまれたが、釋放され、一九三七年二月三中全会で軍事委員長、行政院長、中央常務委員會主席に慰留した。

蔣堅忍 中央航空學校副校長、浙江省奉化縣人、黃埔軍官學校出身、國民革命軍第廿六軍政治訓練部主任等を経て江西

南省に移駐、同省政府主席に任ぜられた。

徐永昌(字は次辰) 山西省崞縣人、一八八八年生。北平陸軍大學卒業。一九三一年商震山西を追はるゝに及び閩錫山に從つて山西省に入り省政府主席として閩の所謂山西モンロ主義強化に協力せしも、一九三六年三月共産軍討伐に名を藉る蒋介石の山西中央強化行はれるや失脚せるも、現在復活し山西清鄉督辦。

徐景唐(字は廣陶) 第四路軍參謀長、廣東省人、一八九二年生。日本陸士卒業。李濟琛に従ひ第十三師長、第十五軍長等に歴任し廣東反蔣派たり、西南軍事委員會委員に擧げられてゐたが、一九三六年の西南反蔣軍事に余漢謀と共に中央に歸順し余の許に參謀長となる。

徐源泉(字は克威) 第十六軍總指揮、湖北省人、一八八五年生。日本陸士卒業後張宗昌軍に在つたが後國民革命軍に投じ張宗昌を逐ひ第四十八師長、第十軍長と昇進し現在は蒋介石傍系として湖北、湖南、四川、貴州邊區清剿主任として漢口に司令部を置いてゐる。又中央執行委員。

徐向前 陝西省人、黃埔軍官學校第四期卒業生。革命青年軍人同志會に加入、國民黨、共產黨分離の際故郷陝西に潛入して農民の赤化に努め、一九三四年春紅軍四川侵入の先鋒となつて入川、爾來武裝部隊約五萬を擁して今日まで四川省北部及び西部地帯に強力なる地盤を確立した。

**徐庭瑤** 訓練總監部交通兵監、安徽省人、一八九一年生。保定軍官學校卒業。後軍職に就き一九三二年第十七軍長兼第八路軍總指揮として古北口で日本軍と戦ひ、事變後は軍事委員會委員、保定行營主任、海外軍事視察團々長に歴任した。蔣介石直系將領である。又書畫を良くし數學に通ずる多藝人で軍事に關する著書もある。

**蔣伯誠** 浙江省諸暨縣人、一九二七年國民革命軍總指揮部參謀長として何應欽に従ひ福建に進撃して以來蔣介石の腹心として活躍、一九三〇年韓復榘の山東省政府主席就任以來濟南、北平等に常駐して蔣韓兩者の調停に奔走す。藍衣者幹部としても相當勢力ありと言はれてゐる。

せ

**齊燮元**(字は撫萬) 翼察政務委員會駐會辦事委員(常務委員) 河北省人、一八七九年生。北京陸大卒業、直隸派の有力軍人だつたが南方國民革命軍に敗れて以來挽回ならず天津に隱棲中、一九三六年翼察政權に返り咲いた。

**石友三**(字は漢章) 吉林省農安縣人、一八九二年生。保定陸軍官學校卒業。早くより馮玉祥麾下の驍將として活躍せしが、後韓復榘と親しみ一九三一年廣東獨立するやこれに策應して反蔣介石反張學良軍を起して完全に失敗、爾來韓の許に逃れ、南京側の逮捕の手を免れしも、一九三六年初夏逮捕令を解かれ翼察政務委員會委員として返咲いた。

**石敬亭**(字は後山) 山東省利津縣人、前清奉天新民府中央陸軍第一混成協隨營學堂學生出身。一九三〇年馮、閻、汪等の反蔣政府樹立に際し、馮總司令の下に總參謀たり、一九三五年翼察政務委員會委員に加はり一九三六年春頃より馮の密令を受けて北支明朗化の攪亂者として注目さる。

**錢大鈞**(字は慕尹) 江蘇省崑山縣人、一八九三年生。前清江蘇陸軍小學堂に學び第一第二革命に参加、後保定軍官學校に入り、更に日本陸軍士官學校を卒業。歸國後廣東政府に投じ累進して一九二九年中央軍官學校武漢分校教育長、武漢要塞司令、蔣の侍從室主任、其他を兼任、終始蔣介石の腹心として活動。西安事變に遭難負傷す。三七年三月上海市長就任。

そ

**會擴清** 國民黨中央執行候補委員、貴州省人、一八九六年生。黃埔軍官學校卒業。南京中央軍官學校組織部長を経て國民黨の組織宣傳工作に従ひ貴州及び北支に活躍し一九三四年北平軍事分會附の黨務特別委員長となり又北平陸大校長たりしがその排日工作の爲め追はれて目下四川湖北方面の黨務に當つてゐる。有力な黨工作員。

**曹好森** 軍政部政務次長、江西省人、一八八八年生。日本陸大卒業後馮玉祥の麾下に入り馮軍の總參謀長等に歴任したが一九二九年馮の中央離反後は蔣介石に接近し軍政部常務

次長に任ぜられ次いで蔣の江西共匪討伐軍の參謀長として剿匪作戰に従事し一九三六年同部政務次長に轉じた。

**孫桐萱** 第十二軍長、河北省人、一八九五年生。多年韓復榘に従ひ韓が中央に歸順すると共に中央軍第三路軍第二十師長に任ぜられ次いで第十二軍長となり現在山東に駐屯す。

**孫連仲**(字は仿魯) 第廿六路軍總指揮第廿五師長。江西省人、馮玉祥軍の卒伍より身を起し北伐の際には馮麾下の第二方面軍總指揮を承はり、北伐後青海省主席に任ぜられた。閻、馮、汪反蔣戰の失敗後蔣介石に歸順し江西共匪討伐に従事した。

た

**戴戟** 元滬警備司令、安徽省人。一八九三年生。保定軍官學校卒業後陳銘樞に従ひ十九路軍の京滬地方に入るや滬滬警備司令となり上海事變に日本と戦ひ又日支停戰會議に支那側代表として列席した。其後福建獨立人民政府に参加し失敗して下野した。

**譚啓秀** 第五路(廣西)軍師長、廣東省羅定縣人、一八八七年生。黃埔軍官學校卒業後中央直轄軍旅長たりしが轉じて陳銘樞に従ひ其後十九路軍に入り上海事變の時吳淞砲臺司令として戦ひ、後福建事變に参加し失敗。外遊後廣西に入つた。

ち

**趙觀濤**(字は雪泉) 第八軍長、一九三一年以來江西共產軍討伐に従事してゐた。蔣介石直系軍人で、現に贛浙閩皖邊區警備司令を命ぜられてゐる。

**趙承綬**(字は印甫) 第八軍長、山西省五台縣人、一八八九年生。保定軍官學校卒業、山西騎兵軍に在り、北伐後第三十八師長となつたが、閻錫山の反蔣軍に加はり失敗後山西大同に退き晋北剿匪司令となつた。閻錫山麾下の有力軍人で又趙戴文と親戚關係にある。

**張學銘**(字は西卿) 奉天省海城縣人、一九〇八年生。日本陸軍歩兵學校卒業。張學良の弟で天津市長兼公安局長等の職に在つた、西安事變に際しては天津に在つて弟學良らと策動した。

**張學良**(字は漢卿) 奉天省海城縣人、一八八九年生。東三省陸軍講武堂卒業、一九二八年父張作霖の死ともにも名實共に滿洲の實權を握る。滿洲事變勃發後一旦北支に逃れたるも遂に下野歐洲各國を歴遊す。歸國後舊東北の兵力を背景として蔣介石に重用されるも、蔣の巧妙なる政策により漸次實力が殺がれ、一九三五年西北剿匪副司令として西安に移駐を命ぜられて以來その勢力頗に縮減、一九三六年十二月遂に西安事變を起し蔣介石を監禁す。

**張蔭輔** 訓練總監部副監、湖北省人、一八八七年生。日本陸士及陸大卒業。蔣介石の北伐に従ひてのち軍事委員會參謀

廳長、第四集團總參謀長に任じ程潛の失脚後共に退いたが一九三三年來現職に擧げられた。

張群(字は岳軍) 四川省華陽縣人、一八八八年生。第二革命失敗後日本に亡命、陸軍士官學校を卒業、後一九二五年南下して蒋介石に隨ひ、翌年北伐に加はる。一九三四年湖北省政府主席に轉任し、一九三五年冬汪兆銘引退の後を受けて外交部長に就任す。三七年辭任、中政會秘書長となる。

張之江 軍事參議院參議、河北省人、一八八一年生。馮玉祥の麾下に在つて卒伍より身を起して累進し馮腹心の部下だつたが閻、馮反蔣戰終結後蒋介石に起用され剿匪事業に従つた。現に又中央國術館長を兼ねてゐる。

張治中 中央軍官學校教育長、安徽省人、一八九一年生。保定軍官學校卒業後黃埔軍官學校學生總隊長、中央軍官學校訓練部主任、同教育長等の職に在り馮玉祥討伐、閻、馮反蔣軍討伐の作戰に當り上海事變には第五軍長兼第八十七師長として江灣鎮、廟行鎮に戰つたが事件終結後再び中央軍官學校に歸つて將校養成に當つてゐる、蒋介石直系軍人である。

張定藩 中央候補執行委員、江西省人、一八九一年生。保定軍官學校卒業。廣西の白崇禧に従ひ北伐軍上海占領後滬衛戍司令部參謀長兼上海市長に就いた。廣東獨立後廣東國民政府委員に推された事あり。廣西白崇禧派政客であるが

艦隊司令、中央海軍の有力者。

陳訓詠(字は道培) 海軍部常務次長、海軍中將、福建省福州人、一八八三年生。福州船政學堂卒業。楚同、應瑞各艦長を経て練習艦隊司令馬尾要港司令代理、國民政府軍事委員等に任じたのち次長となつた。

陳慶雲 駐粵空軍司令、廣東省中山縣人、一八九六年生。日本で中等教育を受けた後張惠長と共に米國の航空學校を卒業、北伐軍飛行隊長虎門要塞司令たりし後廣東獨立に加はり廣東南京合作後再び廣東に歸つたが陳策と共に陳齊棠に反對して香港に去り次いで中央の軍政部航空署副署長に擧げられ一九三六年西南解決後廣東空軍の司令となる。

陳繼承 第一軍長、浙江省人、一八九一年生。顧祝同の下に軍職に在り、蒋介石の閻汪反蔣軍討伐に第三師長として従ひ又石友三討伐に第一軍長として平漢線に出動した。其後は剿匪事業に従事してゐる。蒋介石直系將領である。

陳濟棠(字は伯南) 廣東省防城縣人、一八九一年生。廣東陸軍士官學校卒業、一九三一年胡漢民監禁事件に端を發し南支一帶に反蔣氣運漲るや廣西派と結び、汪兆銘、孫科等に呼應して廣東獨立政府樹立の實力的背景となる。後廣東の獨裁者として軍事、政治、黨務財政一切の實權を掌握し、廣西派とともに半獨立的立場を堅持し來りしが、西南事變に際し脆くも潰滅し蒋介石諒解の下に外遊す。

現に中央政治委員會委員に擧げられてゐる。

張勳(字は伯英) 第廿六路軍總指揮、河南省新安縣人、一八八六年生。第一革命後一時下野し實業界に在つたが後韓復榘に招かれて舊部下を糾合し河南省に入り一時省主席を代理した河南土著軍である。現に中央候補執行委員に擧げられてゐる。

沈鴻烈(字は成章) 青島市長、湖北省人、一八八一年生。日本海軍兵學校卒業後累進して東北海軍の全權を掌握し東北艦隊司令兼東北渤海艦隊司令となり一九二九年以來青島を本據とし一九三二年青島市長の職に就いた。

陳銳(字は純芳) 行政院參事、江西省人、一八八七年生。日本陸大卒業後軍界にあり旅長に上つたが次いで行政院秘書を経て同參事となつた、李烈鈞系と謂はれる。

陳儀(字は公俠) 浙江省紹興縣人、一八八二年生。日本陸軍士官學校、陸軍大學卒業。一九二六年浙江省長兼第一師長に就任せしも浙江自治に失敗して下野。一九三一年同政務次長に任ぜられ、後福建省政府主席に轉補さる。蒋介石系軍人にして日本側との關係も相當密接である。

陳季良(名は世英) 海軍部政務次長、海軍中將、福建省福州人、一八八二年生。馬尾海軍學校卒業後南方海軍に在り、歐洲大戰に艦隊を率ゐて浦鹽に出動した。次いで國民政府軍事委員會委員、海軍總指揮等に任ぜられ現在次長兼第一

陳策 虎門要塞司令、廣東省人、一八八八年生。黃埔水師學堂卒業後海軍に入り一九三一年廣東獨立に投じ第一艦隊總司令に任ぜられ、次いで西南政務委員、同軍事委員となつたが、のち陳齊棠と對立して艦隊を率ゐて廣東を去つた。

其後中央の海軍々會處長を命ぜられ一九三六年西南解決後虎門要塞司令に任ぜられ又第四艦隊司令たり。廣東海軍の首領である。

陳紹寬(字は厚甫) 福建省閩侯縣人、一八八八年生。福州海軍學堂卒業。一九一六年駐英支那公使館附海軍武官として倫敦に赴任、巴里講和會議にも出席す。一九三一年國民政府海軍部長に就任。蒋介石系にして當代支那海軍の第一人者。

陳誠(字は辭修) 浙江省人、一八九六年生。保定陸軍士官學校卒業後直ちに黃埔軍官學校教官となり、一九三一年剿赤軍第二路指揮官に拔擢さる。蒋介石腹心の部下にて西南事變勃發するや中央軍を指揮し、廣東政權没落後逸早く廣東に入りて同省の軍事整理に當る。現在軍政部事務次長。

陳調元 軍事參議院々長、河北省人、一八八五年生。北洋武備學堂卒業。江蘇土著軍として勢力を増大したが北伐軍に投じその第卅七軍長として蒋介石に従ひ、安徽省政府主席第一路軍總指揮等に就き一九三四年以來軍事參議院長の要職に在る。現在第二級上將。

張發奎(字は向華) 廣東省始興縣人、一八九五年生、武昌陸

軍々官學校卒業後李濟探の麾下に參じ、一九二六年蔣介石の北伐に従つて各地に轉戦後汪兆銘系の勇將として長く蔣と反目、一九三二年西南軍事委員に擧げられしも、後下野外遊して一九三四年末歸國、南京側と妥協、浙閩皖邊境綏靖主任に就任す。

て

程潛(字は頌雲) 湖南省醴陵縣人、一八八一年生。日本陸軍士官學校卒業、一九二八年國民政府軍事委員會常務委員、國民政府委員等を兼任、一九三五年十二月參謀總長に任ぜらる。

田頌堯 第十二路軍總指揮、四川省人、一八八六年生。保定軍官學校卒業後副存厚に従つて四川軍に入り爾來四川に在る。

と

唐生智(字は孟瀟) 湖南省東安縣人、一八八五年生。一九一四年保定陸軍士官學校卒業。汪兆銘の下に投じ終始反蔣的立場をとり來りしが一九三一年南京、廣東妥協成るや國民黨中央候補執行委員に選ばれ、一九三二年國民政府軍事參議院長に任ぜらる。

鄧錫侯 第十四路軍總指揮、四川省人、一八八九年生。保定軍官學校卒業、四川に入り四川省長、四川督軍等の職に在つたのち國民革命軍に參加した四川將領。

は

白崇禧(字は健生) 廣西省桂林縣人、一八九三年生。保定陸軍士官學校卒業、一九二九年蔣介石と廣西派と對立するに及び廣西に歸還して李宗仁とともに徹底的な反蔣運動を起し、三六年初夏陳濟棠を勵まし抗日を名とし兵を湖南に進め所謂西南事變を惹起、九月に入り汪の全面的讓歩により一應の平和的解決を告ぐ。現在第五路軍副司令、軍事委員會委員。

柏文蔚 國民政府委員 安徽省人、一八七四年生、第一、第二革命に參加し第卅三軍長として北伐にも加つたが後汪兆銘等と共に反蔣運動を續けた。汪系改組派に屬し現に中央執行委員。

ひ

馮欽哉 第廿七路軍總指揮、陝西の楊虎城の下に第七十一師長より第四十二師長兼第七軍長となり西安事變解決後第廿七路總指揮に任ぜられた。

馮治安 一九三〇年の反蔣戦にて鹿鐘麟軍の師長等を経て第二十九軍第三十七師長に任ぜらる。宋哲元の部下にて一九三五年冀察政務委員會成立とともに察哈爾省より河北省に移駐。抗日意識濃厚にて豐臺に於ける頻々たる邦人侮辱事件もその配下の將兵の犯せるもの。現在河北省政府主席。綏塔南 第四路軍(廣東軍) 第五軍長、廣東省人、初め黃琪

翔軍の下に在りてのち張發奎と共に北伐軍に従つたが次いで陳濟棠軍に投じた。一九三六年西南解決後余漢謀等と共に中央に服従し第五軍長兼第三軍司令官となる。

朱春霖(字は瑞風) 前西北剿匪總司令部總務廳長、奉天省錦州人、一八八二年生、奉天法政學校卒業後奉天軍麾下の各職を経て東三省兵工廠總辦に任ぜられ滿洲事變直後錦州に移轉した。

ほ

彭德懷 湖南省瀏陽縣人、黃埔軍官學校卒業。元廣西軍團長黃公略とともに共產黨に入り、一九二八年紅軍第五軍を編成す。朱徳の紅軍第四軍と聯絡し一九三〇年長沙を占領せしが、間もなくこれを放棄して一九三四年毛澤東とともに廣西に入り、昨今は寧夏方面に進出せりと傳へらる。

方振武(字は叔平) 元第十軍長、安徽省人、一八八五年生、第一集團軍第四軍團總指揮として北伐に従ひ、濟南事變を起した直接責任者で、一九二九年反蔣嫌疑で監禁され許されてのち馮玉祥と共に察哈爾で抗日戦に參加したが敗退後政府から一切の官職を褫奪された。

方本仁 軍事參議院參議、湖北省黃岡縣人、一八八〇年生、江西督辦たりし時吳佩孚の爲め罷免されてから廣東に走り蔣介石麾下に入つて北伐軍第十一軍長たり。一九三〇年奉

天軍關内出動に當つては、蔣代表として張學良説得に當つた。

鮑文樾 張學良代表、奉天省人、一八八九年生、北京陸軍大學卒業、張學良の下に軍職に在り、一九三一年參謀次長となる。張學良系新派要人にして屢々張學良代表として蔣介石と張との聯絡に當り西安事件にも妥協工作に奔走してゐた。

ま

馬鴻逵(字は少雲) 寧夏省政府主席、甘肅省人、一八九三年生、馮玉祥の許に在つたが、韓復榘と共に馮軍より離脱し中央軍に入り蔣介石に従ひ一九三一年第十五路軍總指揮を命ぜられ、又寧夏主席に任ぜられた、回教徒である。

馬麟逸 青海省政府主席、甘肅省寧夏縣人、前清時代より軍職に在り甘肅方面に軍を率ひてゐたが、一九三三年以來青海省主席の職に在り、又第廿四路軍總指揮を兼ねてゐる。

馬占山 奉天省人、一八八七年生、綠林出身、奉天軍に入り黒河に在り、滿洲事變起るや國民政府から黒龍江省主席に任命され日本軍に抵抗したが後歸順し滿洲國黒龍江省長兼軍政部長に任ぜられた。然るに又も背叛して反滿軍を起した爲め討伐を受け露領に逃げ込み歐州を廻り支那に歸國、北滿抗日英雄に祭上げられ蘇炳文と共に軍事委員會委員に擧げられてゐる。



萬福麟(字は壽山) 吉林省農安縣人、一八八〇年生。行伍出身、夙に吳俊陞に従ひ後張學良と接近、滿洲軍變後北平に綏靖公署設置さるゝやその總參謀。一九三二年綏靖公署廢止後國民政府軍事委員會分會委員となり、一九三五年該分會撤廢後も部下を率ゐる河北省内に留まる。

毛澤東 湖南省湘潭人、一八九二年生。農家に育ち農民生活に對する體驗を豊富に有す。佛國に留學、苦學して經濟學を修め歸國後共產黨に入り、國民黨共產黨合體するや國民黨に入黨、一九三〇年長沙占領に際しては革命軍事委員主席として最高指揮權を掌握、一九三一年江西省瑞金に中華ソヴェト共和國臨時政府が成立するや同政府中央執行委員會主席兼人民委員會主席となり、一九三四年秋朱德と共に約六萬の大軍を率ゐて四川に入り、朱德と別れて一九三五年更に陝西に向ひ一九三六年春山西を侵し、現在寧夏、綏遠省境方面に在りと言はる。

毛炳文 第三十七軍長、湖南省人、四川軍より國民革命軍に投じ第四十軍長代理、第八師長等に歴任し、又江西、福建の共匪討伐に従つた蔣介石系軍人。

俞濟時 第五十八師長、浙江省奉化縣人、一九〇二年生。黃埔軍官學校第一期卒業後革命軍に入り累進し一九三一年第

士官學校卒業後再度渡日一九二九年陸軍大學卒業歸國後一時河南に在りしも後革命軍に加はり、一九三二年北平陸軍大學校長に任ぜられ、更に進んで國民政府參謀本部參謀次長に拔擢され今や支那有数の戰略家として蔣介石に重用さる。

楊虎城 西安綏靖主任、陝西省人、一八八三年生。馮玉祥及胡景翼の麾下に在り、北伐に出動し一九二九年于右任の斡旋で蔣介石に服従し馮の反蔣軍討伐を潰走せしめ陝西省政府主席となり次いで第十七路總指揮兼第七軍長、西安綏靖公署主任に任じた。張學良と共に西安事件を起したが許されて綏靖主任の職に留まつてゐる。

楊森 四川軍綏靖第三區司令、四川省人、一八八四年生。長く吳佩孚の下に在りてその援助を受けて四川に勢力を確保すべく屢々戦つたが一九三二年以來劉湘の下に第三區司令となつてゐる。

楊廷溥 參謀本部高級參謀、四川省人、一八八五年生。日本陸士及戶山學校卒業。北京政府陸軍部科長を振出しに平津衛戍司令部參謀長を経て駐日公使館附武官となり一九三四年歸國し參謀本部に入つた。

羅卓英 廣東行營總辦公廳主任、中央軍第十一師長として湖南、江西の共匪討伐に當つて後第十八軍長となり一九三六

八十八師長となり上海軍變に出動し廟行鎮に戦つた。事變後湖北の鄒共に當り次いで五十八師長を命ぜられた蔣介石直系である。

熊式輝(字は天翼) 江西省安義縣人、一八九二年生。保定陸軍官學校、日本陸軍大學卒業。一九三一年蔣の江西共產軍討伐には陸海空軍總司令部參謀長として活躍、同年末江西省政府主席に任ぜらる。元李烈鈞の部下たりしも後蔣介石直系の軍幹部として現在に至る。

熊斌(字は哲明) 湖北省黃安縣人、一八九三年生。日本陸軍大學卒業。一九三〇年には馮の軍事顧問たり。一九三一年には國民政府參軍所參事に任ぜられたるも翌年これを辭す。後軍事委員會第二廳長として活動。一九三二年華北停戰協定支那側代表たり。現在參謀次長。

余漢謀(字は握奇) 廣東省高要縣人、一八九一年生。行伍出身。陳濟棠麾下の廣東陸軍中最も重きをなしたるが、西南事變勃發するや當初より戰意なく江西に進軍後半年月を出でずして廣西派を裏切り蔣介石側に寝返り、陳濟棠殞落の後を受け中央より廣東省綏靖主任に任ぜられ事實上廣東軍最高長官の地位に就く。現在第四督軍總司令兼廣東綏靖主任。

楊杰(字は耿光) 雲南省大理縣人、一八八九年生。日本陸軍

年西南解決後廣東行營の總務を管掌してゐる。陳誠麾下にあつた中央軍人である。

李延年(字は吉甫) 第九師長、山東省人、一九〇二年生。黃埔軍官學校卒業。蔣介石に従つて北伐に加つた後武漢廣西派閥馮反蔣軍の討伐に當つた。蔣介石系中央軍人で上海事變には八十八師副師長として參戰しその功に依り第九師長に任ぜられ次いで福建事變討伐に當つてゐた。

李濟深 元訓練總監、廣西省人、一八八六年生。北京陸軍大學後廣東軍に入り國民革命軍總參謀長の要職に在つたが李宗仁と通じ大廣西主義を抱いて一九二八年蔣介石の爲南京で監禁された。一九三一年釋放されて訓練總監に任ぜられた後も福建事變を起しその獨立人民政府主席となつたが失敗後外遊してゐる。

李世甲 支那海軍馬尾要港司令、福建人、一八九四年生。芝罘海軍大學卒業。潜水艇運用研究に米國に派遣された事あり。艦上生活を送つて漸次累進し一九二九年海軍少將となり海軍部政務署長となり、一九三一年には海軍次長となつた。現海軍少將。

李杜(字は植初) 奉天省義縣人、一八八〇年生。東三省講武堂卒業。夙に張作相に従ひて吉林に在り。一九三一年滿洲事變後丁超と結び熙洽に反抗して東北自衛軍を組織、支那

本土の東北義勇軍後援會、舊東北軍其他よりの後援の下に執拗に反日滿策動を續行す。反滿失敗後三三年上海に來りその部隊は新張に移された。

**李品仙** 第五路軍(廣西軍)總參謀長、湖南省人、一八八七年生。初め唐生智軍に在り、唐の下野後廣西軍に投じて廣西軍第八軍長、西南軍事委員會委員の職に在り、一九三六年西南解決後第五路軍の編成されるや李宗仁の下に參謀長となり又廣西綏靖公署(主任李宗仁)副主任を兼ねてゐる。

**李服膺** 第六十八師長、山西省人、一八九〇年生。夙に閩錫山の山西軍に在り、北伐に参加、後北平警備司令に任ぜられ、閩、馮の反蔣軍に加つて敗れて山西に退き徐永昌軍に屬す。

**李揚敬** 閩浙贛邊區清鄉司令、廣東省人、一八九二年生。陳濟棠の下に第一集團軍第一軍長たり。陳軍の有力將領だったが、一九三六年西南軍變に余漢謀と共に中央に服し余の下に第四路軍副司令となつたのち福建浙江江西方面の清區司令に任ぜられた。

**劉建緒** 豫鄂陝區區清鄉主任、湖南省人、一八九〇年生。保定軍官學校卒業後何健の下に在りて第十九師長、第廿八軍長となり一九三六年海南、湖北、陝西方面の警備に就いてゐる。

**劉峙** 豫皖綏靖主任、江西省人、一八九一年生。保定軍官學

校卒業、北伐に参加して革命軍第一集團軍第一軍團總指揮となり其後各地に反蔣軍討伐に出動し一九三〇年河北省政府主席、開封行營主任に任ぜられたが、後主席を商震に譲り豫皖綏靖主任に就任した。蔣介石系將領にして現に第二級上將に任ぜられてゐる。

**劉汝明**(字は子亮) 一九二七年馮玉祥の下に國民革命軍第二集團軍第一軍長たり。一九三一年石友三の反蔣舉兵に参加して失敗。後宋哲元の第二十九軍に師長として復活し最近張自忠の後を受けて察哈爾省政府主席に任ぜらる。

**劉文輝** 西康省政府主席、四川省人、一八九五年生。保定軍官學校卒業。四川軍に入つて漸次勢力を得て四川省政府主席となり四川西部及西康の地盤と十數萬の兵力を擁したが甥の劉湘に地盤を侵され西康に去り西康建省委員長を命ぜられて西康省政府設立に當つた。

**梁和鼎** 第卅九軍長、安徽省人、一八九三年生。保定軍官學校卒業後革命軍に入り王榮泉、馬玉斌等の麾下に在りし後國民革命軍第五十六師長に任ぜられ福建方面に駐屯し共產土匪討伐に従事してゐた。蔣介石系である。プロツクの一として常に蔣介石に不安を覺へしめつゝある。

**龍雲**(字は志舟) 雲南省昭通縣人、一八八七年生。雲南講武堂卒業。一九二九年南京政府の廣西討伐に際し討逆第十路軍前敵總指揮として廣西に進出せしも、その後廣西との地

理的經濟的關係よりしてこれと不即不離の關係を續け、所謂西南。

**李守信**(字は子忠) 内蒙第一軍司令官。一八九三年生。卓索圖盟、東土默特旗人で一九三二年手兵を率ひ吉鴻昌軍を破つて湖北を平定し滿洲建國後は滿洲側と連繫の下に察哈爾省に察東特別自治區を樹てその行政長官となつた。一九三六年以來徳王の下に内蒙民族運動に参加してゐる。

**鹿麟鐘**(字は瑞伯) 軍事參議院參議、河北省人。一八八四年生。馮玉祥腹心の麾下にして一九二四年馮の命を受け北京クーデターを行つて宣統帝を追つた、其後も馮の下に北伐に従ひ北伐完成後馮の軍政部長の時軍政次長となり馮の反蔣戦反敗後天津に隠退したが次いで參議に舉げられ又中央執行委員に推されてゐる。

## 軍部關係以外の者

**殷汝耕**(字は亦農) 浙江省平陽縣人、一八八九年生。早稻田大學政治科卒業。第一、第二革命に際し兄殷汝驥と共に活躍。一九二六年郭松齡の反張作霖軍の外交部長となり郭軍敗退後日本に亡命。一九三五年北支自治運動勃發するや冀

東防共自治委員會を組織、次いで冀東自治政府を樹立し主席として日滿支三國の親善提携に努む。夫人は日本人である。

**殷同** 鐵道部參事、江蘇省江陰人、一八八九年生。日本陸軍經理學校卒業。軍政部紗局副局長、軍政部長を経て山東省魯大公司經理等に任じ、一九三三年北平政務整理委員會に入り北支戰區接收委員として日本側との折衝に當り特使として來朝した事あり、塘沽協定等に働いた、後北寧鐵路局長となり滿支通車に努力した、一九三五年より現職、日本語は日本人と變らぬ位巧である。

**于右任**(字は伯循) 陝西省三原縣人、一八七八年生。日英兩國に留學。夙に孫文の革命運動に加はり、五・卅事件、沙面事件等には民衆の指導者として活躍。一九二六年以來馮玉祥麾下に參じ、一九二八年國民黨中央執行常務委員、軍事委員會常務委員其他の要職を兼任、一九三〇年國民政府監察院長に就任す。

**王延松** 上海綢業銀行董事長。浙江省上虞縣人、一九〇〇年生。上海商學院卒業、大新綢緞局を經營する傍黨部に關係し排日貨運動の主動者で、一九二八年上海反日委員會副主席委員たり、現在上海市總商會常務委員のほか黨關係、絹

布業關係の多くの公職に在り浙江財閥の一人である。

**王家楨**(字は樹人) 外交部顧問、吉林省双城縣人、一八九九年生。慶應大學理財科卒業、吳佩孚の下にあつたが、吳の失脚後奉天派に投じ張良の國民政府入りと共に一九三〇年外交部常務次長たり、英國の威海衛接收に當つた。一九三二年赴歐中國國際聯盟支那代表を命ぜられ歸國後現職に就く。學良系外交官。

**王景岐**(字は石隸) 瑞典公使、福建省閩侯縣人、一八八四年生。佛國巴里政治學校、白耳義ルヴァン大學、牛津大學に國際法を學び北京政府外交部に入つて露支蒙古會議書記長たり、北京大學教授を経て巴里平和會議支那全權顧問、波斯公使、白耳義公使、國際聯盟支那全權等に歴任、歸國して上海勞動大學校長外交部顧問たりしが一九三六年現職就任。

**王克敏**(字は叔魯) 浙江省人、一八七三年生、清朝時代の留日學生監督、次いで駐日公使館參贊として日本に滯留。一九一三年佛國に遊び歸國後中國銀行總裁に就任後、冀察政務委員會所屬經濟委員會長に任命されたるも一九三七年辭職す。

**王世杰**(字は雪艇) 湖北省崇陽縣人、一八八二年生。天津北洋大學、ロンドン大學、佛國巴里大學卒業。北京大學憲法教授、同法學部長を経て一九二七年國民政府法制局長、翌

一九二八年海牙仲裁々判所判官、武漢大學校長等を経て國民政府教育部長に任ぜられ現在に至る。

**王正廷**(字は儒堂) 浙江省奉化縣人、一八八一年生。天津北洋大學卒業。日本に留學すること二年にして渡米、ミシガン、エール兩大學卒業。第一革命に際し黎元洪の麾下に參じて活躍。一九一九年巴里講和會議に支那全權代表として出席、一九二八年外交部長に就任せるも滿洲事變に關聯して辭任し、一九三六年八月駐米大使に任ぜらる。

**王大楨**(字は其生) 外交部條約委員會顧問、湖南省人、日本陸軍經理學校卒業後東京帝大經濟學部を聽講、華府會議及山東交渉に際し委員たり、のち何健の參謀長等を経て一九二八年王正廷の外交部長の時國民政府外交部駐日特派員となつた。其後歸國して條約委員會顧問となり又何健の高等顧問として何の南京駐在代表となつた。

**王伯群** 國民政府委員、中央政治會議委員、貴州省興義縣人、一八八五年生。日本中央大學卒業、國民黨に加入して革命運動に従ひ廣東軍政府に參加し交通部長になつた。一九二七年南京武漢兩政府合體後一九三一年國民政府改組まで交通部長を二度、財政部長を一度勤め、一九二四年上海大夏大學を創設し現に同學長である。何應欽系とされ交通關係官界の有力者。

**王揖堂**(字は一堂) 冀察政府委員會委員、安徽省合肥縣人、

一八七七年生。前清進士、日本法政大學卒業、徐世昌、袁世凱、段祺瑞に隨ひ北伐完成前の北京政局に安福派の領袖として活躍し國民革命軍の北京天津占領後逮捕令を發せられたが天津日本租界にあり一九三一年東北政務委員會委員となり次いで冀察政權に參加した。屢々日本にも來朝した。

**玉龍憲**(字は亮疇) 廣東省東莞縣人、一八八二年生。香港皇仁學院、天津北洋大學卒業後日本に留學、更に米國エール大學にて法律を專攻。後英、佛、獨各國に學び伯林國際法學會員となる。歸國後革命に參加。一九一九年巴里講和會議には支那代表として出席し一九三一年海牙國際裁判所判事に就任。一九三六年春職を辭して歸國し、一九三七年二月外交部長に就任す。歐米派系人物。

**汪兆銘**(字は精衛) 廣東省番禺縣人、一八八五年生。日本法政大學卒業。日本留學中孫文の門に入り中國同盟會の機關紙「民報」の記者として革命思想の鼓吹に努め、一九一一年清朝の攝政王載灃の暗殺を企て、失敗。一九三〇年北京反蔣派と提携して北京に國民政府を樹立せしめ忽ちにして瓦潰し翌年香港に赴く。同年末蔣と妥協して南京に入り翌一九三二年行政院長に就任して所謂蔣汪政權を確立。一九三五年十一月反蔣派の刺客に襲はれて負傷し、政界より後退、外遊。西安事變の爲、一九三七年一月歸國す。

**恩克巴圖**(字は子榮) 察哈爾省内蒙古人、一八八九年生。北

京蒙古西藏語學校卒業後日本に留學、歸國後國民黨幹部として活躍。現在國民黨中央監察委員、國民政府蒙藏委員である。

か

**何香凝** 廣東省南海縣人。東京女子美術學校卒業。國民黨共產派の重鎮たりし故廖仲愷の未亡人。一九二六年國民黨第二次中央執行委員兼廣東省黨部婦人部長たりしも、現在は中央委員を辭して進歩的婦人運動の指導者として活躍してゐる。

**何炳松**(字は柏承) 國立暨南大學校長、浙江省金華縣人、一九八〇年生。米國ウイソコンシン大學、プリンストン大學卒業。國立北京大學その他に歴史學教授たる一方上海商務書館、東方圖書館に關係し一九三五年現職。

**何廉**(字は醉帝) 行政院政務處長、湖南省寶慶縣人、一八九七年生。米國エール大學卒業、ドクター・オブ・フィロソフイの學位を得て一九二六年天津南開大學財政統計學教授に就任、南開社會經濟調查會を開設してその會長たり。又財政部、立法院の顧問をねる支那有数の統計學者、一九一九年京都の太平洋會議に出席した。一九三六年蔣廷黻の後をうけて行政院に入る。

**賀龍**(字は雲卿) 湖南省桑植縣人、一八七五年生。湖南省西部地方の土匪の頭目より身を起し一九二〇年軍籍に入り各

地に轉戦、一九二七年共產黨を支持して朱德等と共に所謂八・一暴動を惹起、一九三六年春長驅雲南に攻め入り抗日革命獨立政府を樹立、爾來四川の赤軍と連絡を保ちつゝ雲南省西北部一帯に勢力を擴大しつゝある。

**郭德華** 全國經濟委員會秘書、廣東市人、一九〇一年生。米國ワシントン大學、ハーバード大學及英國ケンブリッジ大學に學ぶ。外交部江蘇交涉員、外交部總務司長を経て財政部に入り秘書となつたが、上海事變に第十九路軍顧問たり。停戰會議に出席、又上海撤兵區域接管委員となり事變後經濟委員會に入りして宋子文の腹心である。

**郭泰祺**(字は復初) 湖北省廣濟縣人、一八八九年生。ペンシルヴァニア大學卒業。第一革命に際し歸國して黎元洪の配下として活躍、後汪兆銘系に屬し一九三二年國民政府外交部政務次長に任ぜられ上海日支停戰會議には支那側主席代表たり。後駐英大使に任ぜられ倫敦及び壽府を舞臺に所謂歐米派の重鎮として活躍をつゞけて現在に至る。

**郭沫若**(名は開貞) 四川省樂山縣人、一八九一年生。九州帝國醫學院卒業。一九二〇年歸國と、もに創造社に據り魯迅一派の自然主義文學に對抗して浪漫主義文學を提唱し新文學運動に活躍。一九二六年北伐軍に投じ蔣介石の下に總司令部政治部副主任として活動。急に左傾して、後上海の中國左翼作家聯盟に加入せるも蔣の彈壓に會ひ再度日本に亡

ナ・プレス記者となり、華府會議に同紙特派員として活躍し傍ら Tabin His の名で紐育ヘラルド紙等に寄稿した。

南京政府成立後孔祥熙の下に農商部、實業部秘書となり一九三二年孔が實業使節として歐米視察に赴いたのに隨行し孔が財政部長となるや同部總務司長に推された、孔祥熙直系の人物である。

**許修直**(名は卓然) 前内政部常務次長、江蘇無錫人、一八八一年生。日本中央大學卒業、始め司法官たりしが一九二七年交通部秘書長となり次いで同参事を経て一九三五年内政部常務次長となつたが、一九三六年辭任した。

**許世英**(字は俊人) 安徽省建德縣人、一八七四年生。一九〇五年以來徐世昌の傘下に參じ一九一〇年法律制度研究のため歐米に派遣せらる。一九三一年國民政府振務委員會主席に任ぜられ一九三五年蔣作賓の後を承けて駐日大使に選任された。

**居正**(字は覺生) 湖北省蘄水縣人、一八八二年生。日本法政大學在學中中國同盟會に加入、第一革命に際し歸國革命運動に參加、第二革命には上海にて陳其美に従ひ北軍驅逐を策したるも失敗して日本に亡命す。一九三二年改組後の南京政府に司法院副院長として加入し、次いで蔣、汪政權確立するや司法院長に就任した。

**金樹仁** 前新疆省政府主席、甘肅省導河縣人、甘肅高等學堂

命。夫人は日本人。「中國古代社會研究」「三個叛逆的女性」「女神」「豫言者之詩」「橄欖」「水平線下」「我的幼年」「反正前後」其他の著あり。

**甘乃光** 廣東省梧州縣人、一八八五年生。シカゴ大學卒業。歸國後廣東國民政府各種要職を経て廣州市長、民國日報、民國新聞兩社長等に就任。國民黨極左派の論客として名あり。現在軍事委員長行營第六處長。「先秦經濟思想史」其他の著書がある。

**顏惠慶**(字は駿人) 江蘇省上海縣人、一八七七年生。米國ヴァージニア大學卒業。一九〇八年在米公使館參贊を始め歐米各地の大公使館勤務を経て一九三二年駐米公使に任ぜられ。更に國際聯盟支那全權として日支問題討議に活躍後駐蘇大使に轉補されて蘇支提携工作に盡力。一九三六年夏辭任して歸國す。

**魏道明**(字は伯聰) 時事新報、大晚報、中時通訊社各理事、江西省九江人、一八九七年生。佛國巴里大學卒業、法學博士、辯護士たりしが國民政府司法部に入り秘書長、次長より一九二八年司法行政部長、一九三〇年南京市長となつたが一九三一年辭し新聞經營に當つてゐる。

**許建屏**(字は鑑平) 財政部總務司長、浙江省嘉興縣人、一八八九年生。米國ミシガン大學卒業歸國後上海英字紙ヤイ

卒業、夙に新疆省に在つて一九二八年同省主席となつたが新疆蘇聯通商協定を不法締結の虞で南京政府に逮捕され懲役三年半の判決を受けたが一九三五年特赦された。

**金門泗** 和蘭公使、浙江省嘉興人、一八九二年生。復旦大學及米國コロンビア大學卒業。駐米公使館官補を振出しに巴里平和會議、華府會議にも支那代表隨員となり外交畑で各職を歴任し一九二八年黃郛の外交部長の時外交部第一司長たり、一九二九年和蘭公使に任ぜられ次いで外交部次長代理を経て滿洲事變後の國際聯盟支那代表部員たり、一九三三年以來再度和蘭公使となり又一九三四年聯盟支那代表の一人となつた。

**靳雲鵬**(字は翼卿) 山東魯大公司總辦、山東省濟寧人、一八七七年生。北洋陸軍武備學堂卒業、段祺瑞の下に屬し山東都督、陸軍總長、國務總理となり、一九二一年辭して天津に在り、往年の段祺瑞門下四天王の一人と謂はれた人。

**顧維鈞**(字は少川) 江蘇省嘉定縣人、一八八七年生。上海聖約翰大學及び米國コロンビア大學卒業。哲學博士。一九一九年の巴里講和會議には支那全權として活躍。一九二〇年國際聯盟支那全權、駐英公使に任ぜられ、更に華府會議に臨む。一九三一年張學良北平に陸海軍副司令部を組織するや、その外交關係事務を取扱ひ同年末張代表となり國民政

府外交部長に就任し翌年辭任後駐佛公使兼支那代表所謂歐米派の重鎮として活躍をつゞけてゐる。

**胡鈞**(字は筆江) 上海中南銀行總經理、交通銀行董事長、江蘇省江都縣人、一八八〇年生。北京の一錢莊店員より身を起し交通銀行員の時榮士諱に認められて北京交通銀行本店經理となり、次いで上海に中南銀行を起し總經理となり今日に至る、又中南、鹽業、金城、大陸所謂北方系四行を同盟せしめ四行準備庫、四行儲蓄會を創設した上海金融界有力者。

**胡世澤** 瑞西公使、浙江省吳興縣人、一八九四年生。元駐日公使胡惟德の子で米國華府に生れ露國、佛國で教育を受け巴里大學の法學博士を受く、巴里平和會議代表部秘書補を振り出しに各會議にも出席し一九三〇年外交部亞洲司長より一九三一年國際聯盟支那代表部書記長となり次いで瑞西公使兼國際聯盟支那代表事務所長となつた。

**胡適**(字は適之) 安徽省績溪縣人、一八九一年生。上海震旦大學。吳淞中國公學に學び、政府留學生として渡米、コネル、コロンビヤ兩大學卒業、哲學博士、一九一九年五・四運動の頃より雜誌「新青年」に據り白話文學運動を起して支那文學史上に一時期を劃し、支那文化革命に偉大なる貢獻をなす。一九二二年北京大學文學部長に就任、當代支那文學界、思想界の代表的權威者である。「中國哲學史大綱」

「白話文學史」「胡適文存」其他支那文、英文の著書數種顯してゐる。

**胡孟嘉**(名は祖同) 中國實業銀行總經理、浙江省寧波人、一八八七年生。英國パーミンガム大學、マンチェスター大學に經濟學を學ぶ、歸國後教職に在つたが一九二〇年交通銀行に入り累進して同行總經理となつた。一九三三年中央銀行國庫局長となり傍ら中國實業總經理、上海銀行公會主席委員、大夏大學理事等の地位に在る。交通銀行上海支店經理の時革命軍北伐を援助し交通銀行をして今日の特殊銀行たるの基礎を作つた。現に交通銀行董事。

**胡霖**(字は政之) 四川省人、一八八三年生。一九一一年東京帝大卒業。歸國後上海「大共和報」の記者を振出しに言論界に活躍、一九二六年天津大公報を引繼いで總支配人となり、本年四月更に上海大公報を發刊、支那新聞界の巨頭として知られてゐる。

**胡蘊齋**(名は在章) 金城銀行上海總經理、江蘇省鎮江人、一八八六年生。日本早稻田大學卒業。金城銀行に入り上海支店の總經理となつた。一九三六年二月に成立した中日貿易協會の理事に選ばれてゐる。

**吳南如**(字は炳文) 丁抹公使、江蘇省宜興縣人、一八九七年生。北京新社會報主筆から華府會議支那代表部諮議となり次いで在英公使館一等秘書、外交部情報司長、駐露大使館

參事官を経て一九三六年丁抹公使に昇進した。

**吳鏡城** 廣東省中山縣人、一八八五年生。曾て桑港に於て商業に従事し、第一革命に際し歸國革命運動に参加、第二革命失敗後日本に亡命、蔣介石系として反蔣勢力との折衝に當ること數回、一九三一年上海特別市々長となり、更に國民黨中央執行委員、同組織委員會主任、國民政府立法委員等を兼任し、三七年三月廣東省主席となる。

**高紀毅** 元北寧鐵路管理局長、奉天省遼陽人、一八八九年生。奉天軍に在つて郭松齡に用ひられ郭の敗死後張學良の信任を得た、一九二九年東北交通委員會副委員長兼北寧鐵路局長として交通委員會の全權を握つたが滿洲事變後は天津に在る。

**高宗武** 外交部亞洲司長、日本留學出身で日本語を良くし屢屢蔣介石の通譯を勤めてゐる、蔣介石直系にして若くして亞洲司長代理より同司長に任ぜられた。

**江亢虎** 學者著述家、江西省上饒縣人、一八八三年生。日本、白耳義、米國に留學し、後東京帝大講師たりし事もある。第一革命後中國社會黨を組織し袁世凱反對運動を行ひ袁に壓迫され米國に亡命し歸國後上海に南方大學を設立校長に就任し再度中國社會黨を組織したが續かず渡米して加奈陀マタジル大學支那學生部長たり。一九三四年辭任、歸國後は上海にあり、講演、著述に従ふ。

**孔祥熙**(字は庸之) 山西省太谷縣人、一八八七年生。孔子七十五世の後裔、孫未亡人の實姉宋嘉齡を妻とす。米國オベリン、エール兩大學卒業、歸國後革命に参加、閻錫山、馮玉祥等の下に參じ、馮失脚後再度渡米。一九三五年蔣介石行政院長となるやその下に副院長を兼任、所謂宋一家を媒體とする蔣介石近親派として宋嘉齡夫人とも現南京政權の重要な存在たると同時に支那財界の巨星である。

**克興額**(字は指南) 內蒙古卓索圖盟人、夙に國民黨に加入し國民政府蒙藏委員會參事、教育部編纂等に歴任し、現在國民黨中央候補執行委員、蒙藏委員會委員兼蒙事廳長である。

**蔡元培**(字は子民、號は鶴卿) 浙江省紹興縣人、一八六七年生。清朝時代の進士、翰林院編修たり。一九〇七年獨逸に赴きライプチヒ大學にて哲學を專攻。一九二八年以來國立中央研究院院長、北平圖書館長、國民政府委員、國民黨中央監察委員等を兼任、國民黨元老、教育家、學者として令名あり。また能書家として知られてゐる。

**崔士傑**(字は景三) 外交部視察專員(山東、河南) 山東省人、一八八七年生。東京帝大法學部卒業後王正廷の下に魯案善後事宜督辦公署顧問たり。北伐の際には國民革命軍第二軍司令部秘書となつた。濟南事變後外交部より山東交渉員として特派され爾來同地に視察專員を勤めてゐる。

施肇基(字は植之) 浙江省杭縣人、一八七七年生。上海聖約翰、米國コーネル兩大學卒業。一九一四年駐英公使を振出しに巴里平和會議支那全權、駐米公使其他に再三歴任、一九三六年第三回目の駐米公使を辭任したるも、顧維鈞、郭泰旗とともに歐米派外交官の三羽鳥として令名がある。

周啓剛(字は覺庸) 僑務委員會副委員長、廣東省南海縣人、一八八九年生。孫文の革命運動に従ひ北米を遊説後攻馬に入り國民黨攻馬支部を創立し攻馬華僑の巨頭たり。歸國後も國民黨の黨勢擴張工作に活躍してゐる、現に中央執行委員であり、蔣介石系である。

周鯁生 國立武漢大學法學院教授、湖南省長沙人、一八八八年生。英國エヂンバラ大學、佛國巴里大學卒業。國立北京大學及中央大學政治學主任教授、立法院立法委員等を勤めた蔣介石系の有力政治學者。

周作人(字は啓明) 浙江省紹興縣人、一八八七年生。魯迅の弟。日本法政大學豫科及び立教大學文科卒業。日本留學中に章炳麟に師事し、歸國後主として文筆に親み魯迅と共に「文學研究會」を組織す。一九二四年以後北京大學東方文學(日本文學)科主任教授、燕京大學教授、北平大學女子師範學校講師等を兼任し、日本文學者並に小説家として知られてゐる。

周作民 江蘇省淮安縣人、一八八二年生。上海南洋大學、東京帝大經濟學部卒業。第一革命に際し歸國して以來主として財界に活躍し、金城銀行總經理、北平銀行同業公會主席、國民政府委員會委員等に任ぜられ北支金融界の巨頭として有名である。

周震麟(字は道陝) 國民政府委員、湖南省人、一八七五年生。日本法政大學卒業。國民黨廣東支部總務部長等を経て一九二七年國民政府委員に擧げられた、革命軍の京津占領後北京政府機關引継ぎの役に當つた、汪兆銘系、又北平民國學院長である。

朱家驊(字は福先) 浙江省政府主席、浙江省吳興縣人、一八九二年生。上海同濟大學、獨逸柏林大學卒業。北京大學教授、廣東中山大學校長を経て廣東省政府民政廳長等に歴任、一九三〇年南京の國立中央大學校長に任命され、其後教育部長、交通部長に就き一九三六年浙江省主席を命ぜられた。

朱鶴翔(字は鳳千) 白耳義公使、江蘇省寶山縣人、一八九一年生。白耳義ルーヴァン大學卒業後北京政府外交部秘書を振出しに外交部政務司長、外交部長代理となり、一九三〇年北平反蔣介石政府に陸海空軍司令部外交處長として参加したが、一九三二年來國民政府に入り外交部參事國際司長を経て一九三五年白耳義公使に就任した。

朱經農 湖北省政府教育廳長、江蘇省寶山縣人、一八八五年

生。日本留學中中國同盟會に加入しその後米國華府大學、コロンビア大學に學ぶ。支那に於ける新教授法ダルトン・プランの指導者で各大學教授、上海市政府教育局長、教育部常任次長を経て現職に就く。

朱光沐(字は秀峯) 元北平綏靖公署總務處長、浙江省紹興縣人、一八九七年生。國立北京大學卒業。早くより張學良の身邊に在り、張學良に従つて陸海空軍副司令行營、次いで北平綏靖公署の總務處長となつた。學良の腹心で所謂東北新派の代表的人物である。

蔣廷黻 駐露大使、湖南省寶慶人、一八九五年生。オペリン大學、コロンビア大學卒業、法學博士、天津南開大學歴史學教授、次で北平清華大學歴史學主任教授たり。又中國社會政治評論の總編輯となり、一方胡適の獨立評論の寄稿家である。一九三五年十二月蔣介石内閣成立と共に行政院政務處長に選ばれたが、一九三六年顏惠慶の駐露大使辭任によつてその後任を命ぜられた。

蔣夢麟(字は兆賢) 浙江省餘姚縣人、一八八四年生。上海南洋大學、京師大學堂等に學び後米國カリフォルニア、コロンビア兩大學卒業。一九一七年歸國以來教育に専念、北京大學に教鞭を執り一九三〇年同大學校長に任ぜらる。焦易堂(字は希孟) 最高法院々長、陝西省武功縣人、一八八〇年生。夙に中國同盟會に入り陝西に於て革命運動に従つ

た黨員で、一九二八年立法委員兼立法院法制委員會委員長に就き國民政府改組の際一時國民政府より離れたが後再び立法院委員兼法制委員會委員長となり憲法草案の起草者の一人である、又最高法院々長を兼ねてゐる。

蕭同茲 中央通訊社々長、中央執行委員にして又中央黨部宣傳部に關係し國民黨の宣傳方面を擔當してゐる、蔣介石直系である。

蕭振瀛 宋哲元麾下の重要人物、一九三五年冬冀察政務委員會成立するや天津特別市長兼冀察經濟委員會主席たりしが内部紛争のため一九三六年七月本兼職を辭し目下待機中。

秦德純 河南省人、河南土着軍を率ひて吳佩孚の麾下に赴きしも後馮玉祥に従ひ山東省政府委員等歴任。更に宋哲元の麾下に參じ、一九三五年冀察政務委員會組織さるゝや同委員會委員兼北平特別市々長として冀察政權内部に重きをなす。

蔣經國 蔣介石氏の長男にして、前夫人陳潔如女史との間に生る、大學教育を終へてのち蘇聯に留學、モスクワにて共產黨教育を受け、父蔣介石を革命の反逆者と呼び歸國せず、公開状を父に突付けた事もある、最近態度變更し歸國して黨部の要職に就くと傳へられる、弟緯國は目下伯林で軍事學を學んでゐる。

せ

**錢泰**(字は階平) 西班牙公使、浙江省人、一八八六年生。佛國巴里大學卒業の法學博士。北京政府時代司法部秘書となつた後巴里平和會議、華府會議に法律専門委員として参加してより外交部に轉じ、一九三一年日支紛争の聯盟總會に支那専門委員たり。その後司法行政部参事、外交部條約委員會副委員長の職に在つたが、一九三三年西班牙に赴任した。

**錢宗澤** 隴海鐵路管理局長、浙江省杭州人、一八九一年生。北京陸軍大學卒業後日佛兩國に留學、國民革命軍高級參謀、參謀本部第二廳長等の軍職を歴任後一九三〇年以來隴海鐵路管理局長たり、其後一時鐵道部政務次長を兼ねた、何應欽系と謂はれる。

そ

**會美甫** 廣東市長、廣東省人、一八九二年生、英國ピツバグ大學卒業、探礦工學を專攻し歸國後農礦部次長、建設委員會副委員長等に就き更に浙江省建設廳長兼武昌行營公路建設處長として剿匪軍用公路築造に當つたのち鐵道部政務次長に任ぜられたが一九三六年西南事變解決後廣東市長として特派された。

**宋慶齡** 江蘇省上海縣人、一八九〇年生、米國ウヰルズレイ大學卒業、孫文未亡人、宋子文及び蔣介石夫人宋美齡の姉、國民黨極左派に屬し一九二七年追はれて陳友仁等と共に伯

林、モスクワ等に赴く。一九二九年歸國後も上海に在つて所謂第三黨運動に従ひ共產黨と提携して抗日倒蔣運動に隱然たる勢力を振ひつゝある。

**宋子文** 江蘇省上海縣人、一八九〇年廣東に生る、上海聖約翰大學に學び後米國ハーバード、コロンビヤ兩大學に學ぶ、歸國後主として財界、金融界に活躍、一九三二年蔣汪政權成立するや蔣介石の純直系として國民政府財政部長、行政院副院長等を兼任、現に國民黨中央執行委員、中國銀行董事長等を兼務し、浙江財閥及び政府、中央黨部と緊密なる連絡を保ち蔣介石政權の一大支柱たり、全國經濟委員會に常務委員として活躍す。

**宋哲元**(字は明軒) 山東省樂陵縣人、一八八五年生、早くより馮玉祥に隨從し、その腹心の部下として國民軍の中堅たり、一九三二年張學良失脚後哈爾濱省政府主席、國民政府軍事委員會委員等に兼任、一時反日滿行動を起せしも一九三五年北支自治運動に際し推されて冀察政務委員會を組織し北支政權の首班となる。

**宋美齡** 江蘇省上海縣人、一九〇一年生、宋子文の妹、一九二七年上海にて蔣介石と結婚、一九三四年以來の新生活運動には多大の努力を傾け、蔣介石と同伴全支各地の第一線に飛び活潑なる活動をつゞく。

**曹汝霖**(字は潤田) 江蘇省上海縣人、一八七五年生、一九〇

四年早稻田大學卒業、一九一六年以來段祺瑞内閣に交通總長、外交總長、財政總長等に歴任、一九二八年國民政府より北方政客の元兇として逮捕令を發せられて一切の公職を放棄、一九三六年夏冀察政權改組の議起るや同委員會委員に任命されたるも辭して受けず。

**孫潤宇**(字は子涵) 天津市政府顧問、江蘇省蘇州人、一八七九年生、日本法政大學卒業、北京政府時代衆議院議員に擧げられた直隸派政客で、國務院法制局長及秘書長に就いたが後天津府政府秘書長となり今は天津に辯護士を開いてゐる。

た

**戴天仇**(名は傳賢、字は季陶、天佑と號す) 浙江省吳興縣人、一八八二年生、日本國學院大學に學ぶ、第一革命以來孫文に従つて奔走、日本通として知られたるも、一九一九年山東問題起るや排日の宣傳に努む、一九二八年國民黨中央黨部宣傳部長、次で國民政府考試院長に任ぜられて今日に至る、「日本海」外著書が多い。

**譚紹華** メキシコ公使、廣東省人、一八九七年生、米國シカゴ大學卒業、上海大學に教鞭をとつたのち外交部に入り條約委員會専門委員、外交部秘書、同参事を経て墨國公使となる。

**談嘉孫**(字は丹崖) 大陸銀行總理、江蘇省無錫人、一八八〇

年生、東京高商卒業、南京高商校長、中國銀行南京支店長等を経て大陸銀行に入つた北方系銀行界の有力者。

ち

**褚民誼**(字は重行) 中央監察委員、浙江省人、一八八四年生、日本大學に學び後佛國に留學、中國同盟會に加はり滯佛中革命思想宣揚に努め、歐洲大戰後歸國したが再度渡佛し醫學、藥學を修め廣東大學醫學院長等に就いた、其後保健事務に従つてゐたが一九三一年行政院秘書長等に擧げられ、兆銘の行政院長辭任と共に辭任した、汪系の有力者である、又支那國衛太極拳の權威者。

**張敬海** 波蘭公使、浙江省人、一八九八年生、米國ジョン・ホプキンス大學、ハーバード大學卒業、各大學に英文學等の教授たりし後外交部に入りポルトガル公使、波蘭公使兼チエツコ公使に就任した、黃郛系と謂はれる。

**張惠長** 政馬公使、廣東省中山縣人、一八九八年生、米國で航空學校を卒業し廣東より漢口上海北平經由奉天市長距離飛行を行つて「支那のリンク」と稱せられた、其後南京軍政部航空署長に任ぜられ閻馮の反蔣軍に對し飛行隊を率ひて討伐に活躍したが一九三一年廣東獨立に参加し中央軍飛行隊を率ひて廣東に飛びその空軍總司令となつた、南北妥協後南京政府の航空署長を経て一九三五年政馬公使となる、孫科系。

張公權(名は嘉璈) 江蘇省寶山縣人、一八八八年生、慶應義

塾大學卒業、一九〇九年歸國、一九三五年秋の南京政府の新財政、幣制政策強行を機會に多年の地盤を強制的に奪はれ、中央銀行副總裁の空名を與へられ、次いで國民政府道部長に任ぜらる、舊研究會系人物にて浙江財閥の領袖である。

張熾章(字は季鸞) 大公報主筆、陝西省三原縣人、一八八七年生、東京第一高等學校に學び第一革命に際して歸國し于右任の下に新聞記者等して革命運動に努め一九二六年大公報主筆となつた、その意見は支那智識階級に贊同を得て居り又現在蔣介石の顧問格でもある。

沈鈞儒(字は衡山) 上海法科大學校長、浙江省嘉興人、一八七五年生、前清進士日本法政大學卒業、前清時代より官職に就き革命後浙江省政府秘書長を最後に官を退き法大校長の傍ら上海で辯護士たり、上海辯護士會長であるが、最近章乃器らと共に人民戰線派の有力者となり救國聯合會の先鋒に立つてゐる。

沈觀鼎 パナマ公使、福建省福州人、一八九三年生、九歳の時から日本に在り、東京帝大農學部卒業後歸國北京政府外交部に入り國民政府になつてから戴天仇の下に考試院參事兼外交部條約委員會顧問に就き一九三二年亞洲司長となり一九三四年パナマ公使に推された、日本語に熟達し又其他

數ヶ國語を操り外交部日本通の一人である、「日本行政制度研究」等の著書あり。

陳果夫(名は祖憲) 浙江省吳興縣人、一八九二年生、陳其美の甥、浙江陸軍小學堂、南京陸軍中學に學ぶ、叔父陳其美の片腕として民國革命に参加、爾來蔣介石腹心の部下として今日に至る、弟陳立夫とも所謂C.C.團を組織し藍衣社と對抗す、一九三三年江蘇省政府主席に任ぜられた。

陳介(字は蔗青) 湖南省湘鄉縣人、一八八五年生、日本第一高等學校、東京帝國大學、伯林大學等に學ぶ、國民政府成立後財政、外交關係の各種要職に歴任、一九二四年實業界に入り上海鹽業銀行經理、上海市商會執行委員等に選ばれ一九三五年國民政府外交部次長に任ぜらる。

陳覺生 北寧鐵路局長、廣東省中山縣人、一八九九年生、東京帝大工學士、農學士、國民革命軍第三集團軍秘書より國民政府農鑛部、外交部等に任官したのち北支に入り、河北省、天津市察哈爾省に顧問、參事を勤め、次いで冀察政務委員會に入りその外交委員會委員、交通委員會主席となり殷同の後をうけ滿支通車等に當つてゐる。

陳希會 漢口市政府公安局長、浙江省人、一八九六年生、浙江陸軍經武學校卒業、黃埔軍官學校教官、國民革命軍總司令部秘書、上海電報局長等に歴任し、上海市公安局長を経て漢口公安局長となつた、故陳其美の甥で蔣介石直系人

物で藍衣社有力者と謂はれる。

陳博生(名は溥賢) 中央通訊社東京支局長、福建省福州人、一八九〇年生。日本早稻田大學卒業後歐米に留學し晨鐘報主筆、晨報社長、民言報主筆等を経て學良系の北平晨報社長となつたが、一九三六年中央通信に迎へられて東京に特派された、支那操縦界の有力者。

陳彬蘇 南京朝報主筆、日本留學後雜誌「日本研究」を發行した事あり、一九三二年史量才に起用されて上海申報主筆となつたが史の死後朝報に入る、日本通新聞記者である。

陳壁君 中央監察委員、廣東市人、一八九八年生、汪兆銘夫人で夙に國民黨婦人黨員として活躍してゐる。

陳友仁 廣東省人、一八七八年南米英領トリニダッド島に生る、英國にて教育を受け、一九二七年頃より共產派と結び所謂革命外交の花形となり、武漢、南京合體後モスクワに赴く、南京、廣東台流後孫科行政院長の下に外交部長であつたが、一九三二年孫科に殉じて辭職、目下佛國にて辯護士を開業。

陳立夫(名は祖燕) 浙江省吳興縣人、一八九九年生、米國ピッツバーグ大學卒業、兄陳果夫とも所謂C.C.團を組織主宰し蔣介石の腹心として一時は中央黨部の實權を掌握したるも、一九三五年冬の中央黨部大改組の結果その黨内に於ける勢力著しく減殺さる、廣東省黨部の改組に努め現

在中央黨部組織部長、中央常務委員。

程克(字は仲漁) 元天津市長、河南省開封縣人、一八七八年生、東京帝大法科卒業、日本留學中から中國同盟會に加つたが、馮玉祥と結び張紹曾内閣司法總長、孫寶琦内閣内務總長等に就任した、一九三四年天津市政府顧問より同市長となつたが冀察政權成るに及んで辭任した。

程天放 駐獨大使、江西省人、一八九一年生、米國イリノイ大學、加奈陀トロント大學卒業、江西省及安徽省教育廳長等を経て國立浙江大學校長、江蘇省政府秘書長等に任ぜられたのち一九三五年獨逸大使を命ぜられた、又この間黨部に入つて有力な活躍をしてゐる。

田漢(字は壽昌) 湖南省長沙人、東京高師出身、五四文學運動に際し郁達夫等と共に創造社に據り、後左傾して一九三〇年中國左翼作家聯盟、左翼戲劇聯盟のリーダーとなり、一九三五年國民政府の左翼作家彈壓により逮捕され、爾來今日まで南京に幽禁さる。

唐紹儀(字は小川) 廣東省中山縣人、一八六〇年生、米國コロンビヤ大學、紐育大學に學ぶ、前清時代より多年官界政界に活躍し、最近は國民黨元締めとして重きをなす。

鄧哲熙 冀察最高法院々長、河北省人、一八八一年生、日本



法政大學卒業、馮玉祥に秘書として従ひ河南省高等法院長、河南省政府民政廳長に任ぜられたが後冀察政務委員會の成ると共にその法制委員會委員長に擧げられ次いで冀察最高法院長に轉じた。

**陶尚銘** 外交部條約委員、奉天省人、一八九四年生、日本早稲田大學卒業、後張學良の秘書となりその下に各職に就き北支事件後冀東正專員となり次いで北平政務整理委員會參事となつた。

**陶履謙** (字は益生) 内政部政務次長、浙江省人、一八八九年生、外交部に入つて累進し外交部總務廳長たりし後一九三一年廣東獨立政府に参加したが南京廣東合作後立法委員となり憲法草案起草に従ひ一九三六年内政部次長に任ぜられた。

**莫德惠** 元蘇支交渉全權、吉林省人、一八八二年生、潘復内閣の農商總長たり、一九三〇年蘇支交渉首席全權としてモスクワに赴いたが、滿洲國成立の爲め交渉中絶の儘終るや爾來官界より引退した、併し依然奉天系要人として西安事變にも側面的運動に携つてゐた。

**范漢生** (名は厚澤) 京城總領事、安徽省人、一八八二年生、日本留學出身、湖北都督、外交顧問等を経て外交部に入り總務司科長、情報司日本科長たりし後京城總領事に任ぜられた。

兩省に自家勢力を扶殖せんとしつゝある。

**傅作義** (字は宜生) 山西省孝義縣人、一八九三年生、保定陸軍官學校卒業、閻錫山の麾下に在つて各地に轉戦、一九三〇年反蔣戦後敗閻大連に亡命するや山西軍の實力保持に努め、一九三六年山西の中央化以後完全に蔣介石の控制下に入る。

**閻承烈** 濟南市長、河北省人、一八八三年生、保定軍官學校卒業、西北軍兵站總監となつたが、馮玉祥の失脚後韓復榘に招かれて濟南市長となつた、韓系の有力者。

**俞飛鵬** 交通部長代理、浙江省奉化縣人、一八八九年生、北京陸軍大學卒業後蔣介石に従つて革命運動に加はり黃埔軍官學校教官、國民革命軍總司令部總參議、上海海關監督等を経て一九三一年交通部常務次長となり、次いで同政務次長に轉じ、部長顧孟餘の病氣辭任後部長代理となつた。

**熊希齡** (字は秉三) 元國務總理、湖南省人、一八六五年生、前進時代の官吏たりしが第一革命後辭して統一黨を組織し唐紹儀内閣財政總長より一九一三年國務總理となつた、一九一九年官界を引退し専ら慈善事業に盡力し、北平慈幼院長となり又北平紅卍會長を勤めてゐる。

**熊克武** 國民政府委員、四川省人、一八八一年生、第一、第

れた。

**班禪喇嘛** (名は額爾德尼) 西藏人、一八八三年生、喇嘛教の高僧、後藏の政、教兩權を掌握するも一九〇二年以來達賴喇嘛と對立し、其後達賴の壓迫により一九二四年支那本土に來り國民政府に款を通ず、一九三二年西陲宣化使等に任ぜられ國民黨を背景として入藏せんと焦りしも遂に叶はず、今なほ青海、寧夏方面にある。

**馬君武** (名は和) 廣西大學校長、廣東省桂林人、一八八一年生、京都帝大工科卒業後獨逸に留學工學博士を得、孫文に従つて北上し北京工業大學校長となり次いで司法總長、教育總長等に擧げられたが、一九三〇年以來廣西大學校長たり、各方面の著書多し。

**馬伯援** 日本中華基督教青年會總幹事、湖北省人、一八八五年生、早稻田大學卒業後、黃花崗事件及武昌起義に参加した、後米國に留學し歸國後郷里の教育事業に努力してゐたが一九一九年渡日し留日學生の指導に當る。

**馮玉祥** (字は煥章) 安徽省巢縣人、一八八〇年生、保定武備學堂卒業、西北軍の首領にして宋哲元、閻錫山、韓復榘等何れもその舊部下たり、年來蔣介石と合はず、石の懐柔に誘はれ一九三五年軍事委員會副委員長に任ぜられて以來激越なる抗日煽動を繼續し、且舊部下を使喚して山東、河北

二革命に加はり四川軍を組織し永く四川に據つてゐたが、一九二五年一時廣東の全權を握り間もなく蔣介石に捕へられ投獄された事あり、のち廣東獨立に参加し廣東南京妥協後國民政府委員に擧げられた。

**熊崇志** ブラジル公使、廣東省梅縣人、一八八四年生、幼時渡米し加州、コロンビア兩大學卒業後前清進士となつたが一九二六年來外交部に入り紐育總領事、聯盟代表部秘書長、メキシコ公使に歴任した。

**楊虎** (字は嘯天) 安徽省寧江縣人、南京將辯學堂卒業、一九一三年第二革命失敗後日本に亡命し孫文の秘書となる、一九二六年蔣介石の北伐に従ひ、一九三五年上海市保安隊長に就任、現在淞警備司令を兼任、藍衣社幹部にして相當の勢力を有す。

**羅文幹** (字は鈞任) 廣東省番禺縣人、一八八八年生、英國オックスフォード大學に學ぶ。一九二三年國民政府外交部長となりしも滿洲、上海兩事變後の難局に直面して遂に失脚、支那政客中の歐米派として知らる、現在廣東、黃埔港開港督辦である。

**李錦綸** 葡萄牙公使、廣東人、一八八四年生、紐育に生れて

紐育で育ち紐育大學シカゴ大學を卒業す、歸國後孫文秘書、廣東軍政府外交長政務司長等を経て國際仲裁々判所支那代表、メキシコ公使、外交部政務部長となり滿洲事變當時外交部長代理であつたが、一九三三年來現職に在る。

**李擇一** 福建省政府顧問、福建人、日本慶應大學卒業、日本通の一人で、屢々國民政府と日本側との折衝に當り日本にも度々來朝した、北平政務整理委員會參議たり、又上海事變にも裏面的に活躍し日本語に熟達してゐる、蔣介石系で福建事變平定後陳儀と共に福建に入った。

**李宗仁**(字は德鄰) 廣西省桂林縣人、一八九〇年生、廣西陸軍學堂卒業、元陸榮廷麾下たりしが陸の失脚後孫文に従ふ、一九三六年夏抗日に名を藉り軍を湖南に進め西南事變を勃發せしめたが中央の彈壓により廣東派が忽ち屈服したるにも拘らず最後まで頑強に抗争し遂に九月上旬蔣介石の全面的讓歩により暫時その半獨立的立場を保持す。

**李文範** 國民政府委員、廣東市人、一八八二年生、日本法政大學卒業、胡漢民に従つて革命運動に入り北伐後胡が立法院長となるやその下に秘書長となり胡漢民監禁事件以來廣東で反蔣運動を續けてゐたが一九三一年國民政府改組により孫科行政院長の下に内政部長となつた事がある、胡の義弟。

**李銘**(字は復孫) 浙江實業銀行總經理、浙江省紹興縣人、一

八八七年生、日本山口高商卒業後正金に入り銀行實務を實習して歸國、浙江地方實業銀行上海支店長を経て同支店の獨立して浙江實業銀行となるやその總經理に推されて今日に至る、又中國銀行董事長を勤めた事あり、現に中央銀行監事、交通銀行董事等を兼ね浙江財閥の巨頭の一人である。

**李烈鈞**(字は協和) 國民政府委員、江西省人、一八八二年生、日本陸士卒業、雲南及江西の革命運動に活躍し孫文と共に革命に苦闘し孫の死後は馮玉祥と結び馮を北伐に参加せしめるに力あつた、國民黨の元老である、この間廣東軍政府參謀總長、江西省政府主席等に就任したが、馮の中央離反後公職を辭して歸郷し、次いで上海に在つて在上海蔣反分子の首領格だつた、廣東南京安協後國民政府委員に擧げられ、現在は積極的な反蔣氣勢はない。

**陸宗輿** 龍烟鐵礦開發公司總裁、浙江省人、一八七五年生、早稻田大學卒業、前清時代より官途に在り、民國となつてから最初の駐日公使を命ぜられた、次いで日支合辦中華實業銀行總理となり西原借款に盡力し、更に幣制局總裁、龍烟鐵礦公司督辦、交通銀行總理等に歴任したが、一九二八年以來引退し、最近北支開發進行に伴ひ再び現職に擧げられた。

**劉崇傑** 奧太利公使、福建省福州人、一八八〇年生、日本早稻田大學卒業、前清より官途に在り、民國となつてから外

交界に入り横濱領事、駐日代理公使、西班牙兼葡萄牙公使等に就任、北京政府倒壊後一時官を退いたがのち外交部次長、獨逸公使を経て奧太利公使に轉じた。

**劉文島**(字は塵蘇) 湖北省廣濟縣人、一八九二年生、保定陸軍々官學校卒業、後日本帝國大學及び巴里大學に法律を學ぶ、一九三一年湖北省政府民政廳長、同年駐獨公使として伯林に赴任、現駐伊大使、藍衣社代表として伊國フアシストとの秘密聯絡に従事し歐米軍器の購入に努む。

**梁漱溟** 山東鄉村建設研究院々長、廣西省桂林人、一八九二年生、東洋哲學の權威者で、北京大學印度哲學教授、廣西省政府顧問等を勤めたが、官を辭して一九三一年韓復榘の支援を得て山東に山東鄉村建設研究院を開き支那の自力更生は農村の自治的建設に在りとの主義を鼓吹し、實地の理想村を設け、極めて注目すべき運動を進めつゝある。

**林森**(字は子超) 福建省閩侯縣人、一八六二年生、前清時代多年米國に在つて孫文の革命運動を支援、一九三二年廣東、南京合流に選ばれて國民政府主席に就任、更に一九三五年の五全大會に政府主席に再選、國民黨元老にして人格者なるため蔣介石政權の表面的代表者として利用さる。

昭和十二年八月十四日印刷  
昭和十二年八月十八日發行

編輯  
人兼

東京市麴町區九段一丁目五番地

酒 葉 要

印刷  
人

東京市麴町區九段一丁目五番地

橫 山 才 四 郎

發行  
所

東京市麴町區九段一丁目五番地  
帝國在鄉軍人會本部

終

